No.63

Newsletter

The Friendship Force of Aichi

発行 2005年3月

2005年のＦＦ愛知の活動が始まる

会長　鷹野晴子

2005 年もいつの間にか新緑の季節を迎えるころになりました。今年は 1 月の総会から始まり下記のごとく大きな行事が愛知クラブで滞りなく行われてきております。

1 月 22 日　総会：出席者 29 名
2 月 16 日～24 日　Honolulu 交換：ＥＤ加藤八郎 Amb. 17 名
3 月 1 日　World Friendship Day ：静岡・岐阜・愛知クラブ合同開催、参加者 44 名
3 月 26 日～27 日　日本大会　於大阪クラブ：3 名参加
3 月 28 日～4 月 4 日　Hanover・Norderstedt 交換：ED 冨岡達也　Amb.30 名

いずれの行事も大変活発で充実した活動となりました。会員の皆様のご協力を心より感謝申し上げます。一つ一つのプログラムが真剣に取り組まれ、多くの人の熱意と協力で行われたことによって次の活動をより実り豊かなものにしてきたことが一連の行事の中で示されました。

Honolulu 交換でＥＤの加藤八郎さんが誠心誠意努力され、参加者の協力で素晴らしい交流が行われました。その時参加された新しい男性会員の方々が Hanover 交換では先輩の会員と共に ED の富岡さんを助けて熱心に働いてくださり、交換を大変活気づけました。この交換では実に 80%近い会員が何らかの形で参加されたことを FFI の Debbie さんに報告いたしました。この流れは昨年の活動にもつながっています。

5 月の静岡交流が今年 3 月の WFD の合同開催の成功をもたらし、9 月の Lincoln 交換によって培われた友情が世界大会、Honolulu 交換で示され、我々を驚かせました。10 月の楽しい Australia 交換は 2006 年の愛知での受け入れにつながり、そして Hanover club の ED Hase さんからは今回の素晴らしい交換に感謝して 2006 年に愛知クラブの受け入れ希望が出されました。それぞれの交換、活動においては良いことと同時に問題もあり、失敗もありました。その都度反省を忘れず、次のより良い活動に活かしていきたいと思っております。

一人一人の力は小さいものです。みんなで力を出し合って今年もＦＦ愛知クラブが世界のフレンドシップ　フォースの仲間と共に楽しく意義のある活動を続けていけることを願っております。

World Friendship Day の集い

３月１日、午後 4 時からあいち国際プラザに岐阜クラブ 13 名、静岡クラブ 4 名、愛知クラブ 27 名の会員が集い盛大に World Friendship Day のお祝いの会を開催しました。

当日は前もって Upload しておいた 3 クラブの紹介をウエブサイトで確認するとともに 3 クラブ合同のパーティー会場からインターネットを通して FFI と同時中継で交流するためリンク先を設定しておきました。リアルタイムで撮ったパーティーの写真をそこへ送り、Web サイトから瞬時に流されて参加者全員で楽しむことが出来ました。

FFI のホームページには WFD のプログラムがまだ掲載されています。FFI の President のメッセージや世界各地のクラブ紹介を見ることが出来ます。是非ご覧頂き Friendship Force の活動をご確認ください。

当日は皆さんから WFD への寄付にご協力頂き有難うございました。集まった 3 万円の寄付金と、今年度の予算計上金額 5 万円を合わせ FF 愛知から 8 万円を FFI へ納めたことをご報告します。また、ご提供頂いたバザーの品物で 12,400 円の収益があり、これは 3 クラブから FFI に寄付いたしました。

皆様のご協力によりこのイベントが成功できましたことを心より感謝申し上げます。

第19回日本大会報告

廣野晴子

2005年3月26日(土)27日(日)、第19回日本大会が大阪クラブ主催で開催された。

日本の24クラブから144名の参加が集まり、代表者会議、3つの分科会（受け入れ、渡航、広報）があり、活発な話し合いと全体会議とパーティーでは和やかな交流が持たれた。

代表者会議は24クラブの代表者に事務局から石井嗣代さん、ウエブマスターの佐々木和彦さん、FFIからはDebbie Powellさんが参加され午前10時から昼食を挟んで午後3時まで熱心な討議が行われた。

代表者会議での決定内容：

1．日本の全クラブを一つの組織として明文化しない。規約は作らない。各々クラブが自主性を持った活動運営をする。全体としてまとめる必要のある問題が起こったときは日本大会引き受けクラブがまとめ役をする。

2．ウエブサイト担当の佐々木さんに管理費からウエブサイトにかかる経費を支出する。
佐々木さんからはFFIのウエブサイトとリンクして世界各国からも日本のクラブの状況を知ることが出来るようにしたい。そのためのHP製作には手助けを喜んでしたいと発言があった。

3．代表者会議は来年の大会からは1クラブ1代表者、1議決権。他にオブザーバー1人の参加を認める。発言は代表者がする。その他にフィールドレップも参加する。

4．2006年の日本大会は6月17日、18日、山形クラブ主催で行われる。

5．2006年の世界大会はアイルランドの予定。

6．西日本のフィールドレップは大分クラブの阿南福登さんに決定。

日本大会における
Debbie　Powelさんのメッセージ

FFIの事業は9.11の悲劇、SARS、イラク戦争で不安定な数年間を過ごし、交換参加の減少と収入低下に見舞われたが組織の経営状況は再び安定してきて現在黒字になった。

2004年に日本は22のクラブの渡航があり、300人あまりのAmbassadorが海外に出かけ、329人を海外から受け入れた。

2006年のマッチングは終了した。298の交換が計画されている。今年度の問題はクラブのバランスが取れなかったことである。希望が多かった国は1位がカナダ、次いでベルギー、オーストリアなどである。USAに120のクラブ、203週のホスト希望が出ているが外国からの希望が少なかったので今からでも希望があれば出して欲しい。

World Friendship Day：世界中で200以上のクラブが参加した。NZから始まりハワイで終わった。インターネットを通して同時中継で交流でき、世界を回る24時間のイベントの夢を果たした。このお祝いは二つの意味がある。

一つはFFの誕生を祝うこと、二つはレガシーキャンペーンのための寄付集めである。総額$60,000の寄付が集まった。アルゼンチン、北アフリカ、東欧等に新しいフレンドシップ･フォースのクラブを設立したり、すでにあっても数の少ないフランス、スカンジナビア、南アフリカ等に広げていきたい。

友情と平和の拡大のために協力してくださった日本の皆様に感謝します。

日本大会でスピーチをするDebbie　Powelさん

ホノルル交換を終えて

ＥＤ：加藤八郎

昨年10月FFIより2005年度の渡航は8月にカナダのカルガリーとホノルルの「It's a Match」が送られてきた。役員会で話し合いの結果、2週間の渡航と長距離の移動は大変なので、1週間づつの2回の渡航にするとの結論に達し、その様にFFIに要請し、カルガリーは7月、ホノルルの交換の時期はホスト･クラブの都合を聞いて決めることになった。

10月末、ホノルル･クラブのロビー・ジー会長から2月21日にホノルル･マラソンと同じような、グレイト・アロハ・ランという行事があるのでその時期に交換をしたらどうかという提案があった。ＡＥＤは池田昌子さんに決まっていたが、ＥＤ未定のままであったので、急遽鷹野会長の要請を受けてＥＤをお引き受けすることになった。

渡航まで3ヶ月半の短い準備期間なので早速募集案内を作成して11月はじめに発送、11月30日募集締め切りとした。

期日は2月16日の名古屋空港が新しい空港に移転する前日の最後の日の最終便で出発、2月24日に新しい中部国際空港に帰国するという忘れがたい渡航になった。

11月30日までに20名の申し込みがあったが、2名が取り止められ、18名のアンバサダーが決まった。12月18日のクリスマス懇親会に合わせて、第1回ワーク･ショップを開き、Ambassador Matching Formを作成し送信した。第2回は1月15日に開催した。途中、1名の方が都合で渡航を中止され、17名の参加になった。

準備は最初に予定されていたＥＤが高齢のため降りられ、後任は当分決まらなかったが、会長がＡＥＤとして連絡を代行され、全く支障なく出来た。ＥＤは冬季だけホノルルに滞在される、ルリコ・キャンベルさんが日本語が出来るということで引き受けられた。

ホスト側の特殊な住居事情のため、マッチングに手間取り、最終的に全員のホストが決まったのは渡航12日前であった。最後まで決まらなかった2名はＦＦの会員でない家庭へステイすることになった。マッチングにはいつも多少の運・不運がある。これを乗り越えるのがＦＦである。

これでＥＤとして渡航前の準備はすべて終わり出発を待つばかりとなった。

2月16日夕刻新空港へ移転のための重機や大型トラックが待機している名古屋空港を出発、日付変更線を通過して、同日朝ホノルル国際空港に到着した。

ホストはおのおの生花のレイとハグのハワイアン・スタイルの歓迎で出向かえくれた。ホストの家に着くと、ホスト側の事情を推察して、ＥＤとして、状況によっては床に寝ても構わないと申し出ておいたところ、本当にベッドの下から床にマットを引き出すように準備されているのには少々驚いた。

交換スケジュールはわれわれに配慮して、慎重に作られていた。ホスト各々の担当が細かく決められており、クラブ全体でこの交換を成功させようという気持ちがよく伝わった。

全員参加の到着当日のウエルカム・パーティ、翌日のハワイ・プランテーション・ヴィレッジ見学とピクニック、帰国前日のフェアーウエル・ランチョン、またオプショナル行事のポリネシア文化センター訪問、ホエール・ウォッチング・クルーズ、ソサイティー・オブ･セブン･ラスベガス、グレート・アロハ・ラン、その他ホスト達がいろいろと盛り沢山の行事を準備してくれ、われわれはそれぞれ楽しむことが出来た。

特にハワイ・プランテーション・ヴィレッジの見学で19世紀後半から20世紀はじめにかけて18万人を超える日系移民が砂糖きびのプランテーションに過酷の労働条件に耐えて活躍されたことが印象に残った。80歳のボランティアの日系女性が熱心に説明をされ、当時の苦労が推察された。

2月23日無事交換スケジュールを終え、ホノルル国際空港で、ホストと別れを惜しみながら出発。翌日夕刻新しい中部国際空港へ全員揃って元気に降り立つことが出来た。

ホノルルのＥＤはじめ、ホストの皆さん、アンバサダー皆さんのご協力により事故もなく、交換を終えることが出来ましたことを心より感謝申し上げます。

”いつまでも元気で・・・”

佐藤正幹

いつも思うのだが、外国のFFメンバーの人々は相対的に高齢者が多いように思われる。

またお元気である。元気である人だけが活動されてるかは定かでないが・・・。ハワイのホストは夫婦とも81歳で2人のみで生活されていて、感激した。

12月にハワイにきて5月に本土のミシガン州へ帰られる。　自称　スノー・バードである。夜にはミシガンの娘さんにいつも電話されている。毎日の無事を報告されているようだ。

ふとっちょの奥さんは動きはスローだが、いつも朗らかだ　そして笑顔がかわいい。

旦那さんは均整の取れた１８０センチの穏やかな紳士である。ゴルフを１ラウンド付き合ってくれた、途中ヒザが辛そうだったので声をかけたら、スピリッドだといってウインクを返してきた。 私にはストレスのない朗らかな毎日の生活が長生きの秘訣のように思えた。

私の感じたこと

棚村　英子

ステイ中、多くのイベントを体験した中から特に、Hawaii's Plantation Village を訪れた事は印象深いものになりました。日系移民の砂糖きび、パイナップル畑での過酷な労働、そしてまた戦時下での苦難な生活に耐え、今日の姿があることに胸打たれました。

佐久間さんという 80 歳の女性（ボランティアガイド）の日本語の何と美しかったこと。

ホストのレネットさんも此処で毎週1回、ボランティアをしており売店で売っている品を作ったり、ガイドをしているそうです。

展示品が入れ替わったことから夕方からのレセプションに再び訪れ日系の方達何人かとお話できました。皆さん素晴らしく涙が出そうになりました。多民族の集合した社会で頑張って来られた人たちの優しさに触れることができました。

Aloha !!

佐藤美知子

「名古屋空港最後の日に旅立ち」・・・と、何か普段と違う状況を期待して行きましたが垂れ幕や看板もなく普段と余り変わりない感じがしました。

でも、品物の陳列棚が空っぽになっているのを見て「やっぱり今日が最終日だ」と感じつつ飛行機に乗り込みました。

私のホストはオワフの北のサーフィンで有名なノースショアのサンセットビーチに一人で住んでいるドロシーという人でした。彼女はとてもおしゃべりで車を運転している間も無言になった時がないくらい私にしゃべり掛けてくれましたので、退屈しませんでした。その話の中でポリネシア文化センター(PCC)は日曜日には休業することを聞きました。

何故か知っていますか？

PCCのあるライエという町はPCCを中心に２マイルづつ計４マイルに渡ってモルモン教の町だからです。日曜日は全ての店が休業し、アルコール類やカフェインの入った飲み物などは常時売られていないそうです。その他に“さとうきび畑の跡にエビの養殖をしている”“オワフは小さい島だけれど東西南北によって雨量が違う”など、色々な話が聞けて、とてもハッピーな気持ちで真新しい中部国際空港に着きました。

TOMODACHI

白木裕己

ED の Ruriko さん AED の Bobie さん、Friendship Force ハワイのホストの皆さんのすばらしいもてなしに対して誠にうれしく、又感激をいたしました。

今回私としては初めての交換への参加でした。何もわからず一抹の不安と楽しさ、今までのツアーとは目的が違い、Friendship Force のみなさんとの友情をあたためあう目的と世界平和のために互いに良く知り会い、末永く交換できるということが今回実感いたしました。

ハワイの今までにはない Great Aloha Run／Walk Jvcbl トレッキングとその登山やハナウマ湾でのシュノーケル、ホームパーティ等ホストの皆様と一緒に楽しい日々をすごさせていただき、新たな感激を味わいました。皆様のご健康とご多幸を願い、感謝の気持ちでいっぱいです。

Aloha.

エヴァ・ビチ　ホウムステイ

池田　昌子

私にとって2度目のハワイ、今井さんとご一緒でした。ホノルル空港からは西側にあたり、ホノルル交換行事のため、毎日のように右手に真珠湾の美しい景色を見ながらハイウエイを走りました。

今回の一番の印象は、遠くに第2次世界大戦の降伏文書が調印された戦艦ミズリー号を見ながら、USS アリゾナ記念館へ行ったことです。今もその下で、軍艦アリゾナ号と共に眠る方々のご冥福をお祈りしました。

次に、スター・オブ・ホノルル号に乗って、ホエール・ウオッチング。映像でしか見たことのない、ザトウ鯨の親子に出会いました。お母さんのブローチング（ハイジャンプ）に続いて赤ちゃん鯨も一生懸命練習をしていました。今でも夢のような一コマでした。

ホエール・ウォッチング・クルーズ

加藤八郎

ハワイ諸島はザトウ鯨の保護地区、鯨の天国。毎年冬になると、北太平洋に住むザトウ鯨の約2/3、5,000頭近くがハワイを訪れる。

スター・オブ・ホノルル号に乗ってホエール・ウォッチング。果たして鯨が見えるか？左手 9 時の方向の水面に親子の鯨の背が見えるとのアナウンスに船内に歓声が沸く。

その後何回も鯨の群れの泳ぐのを見ることが出来て非常にラッキー。途中、テイスト・オブ・ハワイ・ブッフェの昼食。フラダンスのレッスンがあり、近藤久子さんのフラダンスを見る。隣の外人のおばさんと楽しそう。山田晴久さんは船酔いで最後まで苦しそうでした。

スター・オブ・ホノルル号の船上にて

エキサイトメントな交換体験

久保三郎

今回は、始めての体験した交換の旅であった。2日目のPCC(ポリネシア)でのトンガショーで、日本人の代表で、舞台に上がり、催事に参加してから他の国の人々から、又日本人の観光客からも、貴方は最高でしたと云われ、少し有頂天になったこと。私たちは出発3日前まではホストが決まらず、とても不安でしたがFFのメンバーで無いけれどもEDの知り合いでミシガンから冬の間だけハワイに滞在しているウエラー夫妻で２人とも８１歳でFFの事がわからない人たちでした。デイホストもFFのメンバーでなく当初は大変でしたが彼女は日本人でアメリカに40数年生活していて、何かとコミニケションが上手く出来て助かり最高でした。

PCCの帰りの出迎えに行き違いがあり気まずい状況になったが、ホストを如何に楽しませることに切り替え徐々に良い交流になり最後の日には、ホストがミュージュシャンの友人２人がミシガンから訪問があるとの事で、私が日本料理を披露することで決まり、８人分準備して欲しいとの事でしたが、準備の途中で、あと３人分追加の依頼があり（ホスト夫婦、デイホスト夫婦、ED夫婦、ミシガン２人はミュージシャン、我々と、コロンビアのミュージシャン１人）合計１１人分の料理は大変でした。料理の中味は、トマトとオニオンのみじん切りにパセリ和えのサラダ、ブロッコリにツナ缶詰とマヨネーズ和えのサラダ、ツナの照り焼き、鳥味噌をベースにした煮物風スープ（大評判）、スープをベースにした雑炊、ありあわせ等、ゲストは4時頃から集まり飲み始め6時から食事会であったが、11時まで、100曲以上の歌、踊り7時間に及び大変な騒ぎで、彼は国家的、州全体の人々を楽しませるピアニスト超有名人でした。コロンビアのジョージもダンスと歌が特別に上手く、ハワイのED　Ruriko Hood-Campbellも始めての経験で招待されたことに、感激していた。彼女も興奮状態でホットな1日でした。素人の私もハワイの歌、ジャズ、日本の歌7～8曲位披露し、佐藤さんもフラダンス等で楽しんだ。ホストのミシガンの家は、初代ヘンリーフォード・ミルの家で敷地が10エーカー2分の一（約12,000坪）屋敷が5棟あり、驚くばかりでした。信じられない程のエキサイテイングな熱い熱い一夜でした。

グレート・アロハ・ラン８.12マイル（13キロ）も12年ぶりのマラソンで正味1時間30分掛かりましたが、何もかも良い体験でした

ハワイ思い出のショット集

Feb.16　ウエルカムパーティ

歓迎のレイをかけてもらいご機嫌のFF愛知の面々

Feb.18　ポリネシアン文化センター

トンガ村イベントに飛び入り参加の久保さん

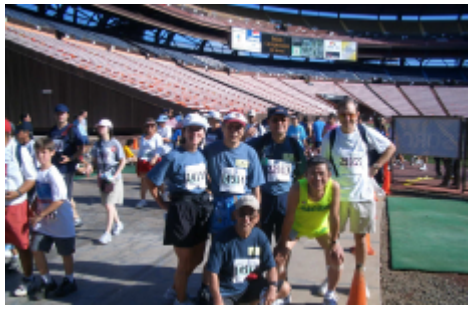
Feb.17　プランテーションヴィレッジ

日系ボランティアの女性の熱心な説明に耳を傾ける

入植者たちの楽器マラカスに興じる

Feb.21　グレート・アロハ・ラン

アロハタワーのスタート地点近くで



フィニッシュ後アロハスタジアムにて

Feb.22　フェアウェルランチオン（Hickam空軍基地内レストラン）

EDの交換記念品を披露する加藤さん

愛知クラブ代表して唯一のエンターテインメントをしてくれた鈴木・棚村さん

フラダンスを披露するJo AnnとJudy

参加者全員で記念撮影（基地内のレストラン前にて）

2005年度FF愛知事業計画

	交　流	国際事業	日本大会 （中部ブロック大会）	愛知クラブ 事業予定
1月				総会　1/22
2月	Outbound ハワイ・ホノルルクラブ ２／１６～２４			
3月	Inbound ハノーバー・ノデルシュテットクラブ ３／２８～４／４	WFD ３／１	日本大会 ３／２６～２７ 大阪クラブ	
4月				
5月				
6月				
7月	Outbound カナダ・カルガリークラブ ７／５～１３			
8月				
9月				
11月	Inbound イギリス・マンチェスター １０／６～１３			
12月				

事務局からのお知らせ

＊　2005年度の会費が未納の方は早急にお払いくださいますようお願いします。

＊　新入会員紹介

安藤　康彦　　（紹介者　久保　三郎）
〒468-0075
名古屋市天白区御幸山443　Tel　052-832-2852
Fax　052-835-3601

伊藤　美恵子　（紹介者　近藤久子）
〒468-0001
名古屋市天白区植田山5-1003　Tel　052-832-0272

尾崎　惠子　　（紹介者　林　まゆみ）
〒483-8044
江南市宮後町砂場西138　Tel　0587-54-7887

鎌田　有美　　(紹介者　石井　嗣代　FFJ)
〒468-0068
名古屋市天白区表台86-8　Tel　052-834-6879

＊　休会制度の発足：
事情により休会員になられる方には1,000円の年会費を納めていただき、会からは会報など情報をお送りすることになりました。これは毎年本人から申請したいただくことになります。

編集後記
今回はハワイ交換特集となりました。
発行が1ヶ月遅れ、その間ハノーバー・ノーデルシュテット交換も終わってしまいました。
引き続き次号の編集を急ぎます。（冨岡）

編集・発行：FF愛知
事務局：〒478-0001
愛知県知多市八幡字笹廻間12-199
Tel＆Fax　0562-34-0890
西村　貴美子